

「レービン ブレードティース」

どんな人工歯なの？

義歯の咬砕力を増すことで、咬合圧の軽減を計り、顎堤を保護するために考案された、自費用の義歯床用人工臼歯です。上顎の第2小臼歯および第1、第2大臼歯の舌側咬頭は、金属製のクロスブレードでつくられています。このクロスブレードの先端に咬合力を集中させるため、効率良く食べ物を噛み切ることができ、顎堤への咬合圧の負担を少なくすることができます。

特長

- ①クロスブレードによる最大の咀嚼効率に加えて、審美性を兼ね備えている
- ②ほとんどの臨床例に対して両側性平衡咬合(※1)に排列できる
- ③レービン ブレードティースは対合歯に無咬頭歯、10度、20度、30度あるいは33度の解剖学的人工歯のどれにでも使用することができるため、ほとんどの臨床例に対し、容易に両側性平衡咬合に排列できる



- ④クロスブレードと硬質レジンから成り、
 [色 調]VITAシェード A1, A2, A3, A3. 5, A4, B2, B3
 [サイズ]Mタイプ(30m/m,20°)・Sタイプ(28m/m,33°)
 [本 数]1組上下顎臼歯16本入り



※1 両側性平衡咬合とは

咬頭嵌合位において両側が咬合し、また側方運動時においても作業側では同名咬頭同士、非作業側では異名咬頭同士のすべての歯が同時に接触するような咬合。



咬合力をクロスブレードに集中。

超高齢化

社会を迎え、義歯のニーズがますます高まる中、特に噛む力が小さい高齢者でも効率よく咀嚼能力を高め、顎堤への負担を軽減します。

「レービン ブレードティース」は長年の実績が証明する「噛める義歯」として、患者様に説明しやすい機能的人工臼歯です。

金属床や耐衝撃性レジン プロインパクト(GC社)など様々な症例で活躍します。

